平成１３年６月２８日～１４年３月１２日議員定数等調査特別委員会　8月24日

●（鈴木和夫　君）　今の定数の合区案についての関連で質問させてもらいたいんですが、四ページに合区案の詳しいことがそれぞれ書かれているんですが、先ほどのお話で、基数を根拠に百七にしたということでありますね。そうなってきますと、ちょっとお尋ねしたいんですが、大阪市内の関係で、大正区と住之江区についてと、それから東成区と城東区についてというふうな御見解、検討されたのか。これに入っていませんでしたので、そこのことについて何か党内で論議されたのか、どう考えておられるのか、ありましたら教えてもらいたいと思います。

●（中川治　君）　大正区と住之江区とが……

●（鈴木和夫　君）　大正と住之江と、あと東成と城東区。

●（中川治　君）　……の合区の件ですか。

●（鈴木和夫　君）　ええ、合区の件で。

●（中川治　君）　そういう可能性もあると思うんです。これは、それこそもう少し各会派の、合意できるのかどうかはわかりませんけれども、きちっとした最終の詰めで、もしそういうことであるとすれば、それも一つの考え方だと思います。
　ただ、私たちは、この合区の基本的な考え方なんですが、一以下のところをまずなくそうということで、少なくとも一票の格差ということを考えますと、人口六万人、七万人というところの選挙区をどう近辺と合体させるかということでずっといろんな検討をいたしました。ですから、港区の場合には、たしかこれは一以上やったかな……。

●（鈴木和夫　君）　西区、港区は合区で三から二になっていますよね－－西区、港区はそのままですね。

●（中川治　君）　そうです。港区は単独で、西区のさわり方ということはあるんですけれども、単独で……。ですから、この場合には、例えば港区と西区を合区するとか、港区と西区だけじゃなくて、浪速区と合区するとか、いろんなことは考えられると思うんですが、その辺については、とりあえず地理的な関係やいろんなことを一応は配慮してつくったつもりなんですけどね。

●（鈴木和夫　君）　そうしたら、民主党案ではマイナス五ということですけれども、こういうような論議の中で、まだそれ以上に踏み込んでもいいということの理解でよろしいですか。今百七ということですけれども、この論議の中で、もう少し削減していってもいいというふうに理解してもいいんですか。

●（中川治　君）　百七以上にもっと減らそうと。

●（鈴木和夫　君）　今、定数五減でしょう。それをまださらに多く削減していくということについてはどうなんですか。

●（土師幸平　君）　五ページのところに、非常に抽象的で、先ほどから御指摘いただいているのは、おまえらはっきりしてへんやないかということで恐らく御指摘いただいていると思いまして、我々ももうちょっと具体的に議員団で練らせていただかなければならんと思うんですけれども、一応百七、五名削減案というのは、数字的に見て四捨五入がきちっと合うということからそういうことにさせていただいたので、決して、書いておりますように、五名削減案は絶対的なものだというような気持ちはさらさら持っていませんので、今御指摘いただいたようなことで、お互いに、これはうちだけで決まるものでもなければ一つの会派だけで決まるものでもありませ

んので、皆さん方とも御相談させていただいて、そして私たちの意見も申し上げて、そこで結論を出していただければと、このように思っております。

●委員長（桂秀和　君）　よろしいですか。

●（鈴木和夫　君）　はい。